◆技術改良試験（重点普及課題）

ハタ類の養殖技術向上ならびにブランド化

（八重山におけるヤイトハタ養殖指導）

八重山支庁農林水産整備課　中村勇次

１．目的

八重山地区では、平成１０年より八島魚類養殖場が供用開始され、ヤイトハタを中心とした養殖が順調に行なわれていたが、平成１８年に来襲した大型台風１３号により施設に壊滅的な打撃を受けた。その後、平成２０年度に浮桟橋の補修、養殖場港口の延長、岸壁の嵩上げを行ないより対波性に優れた養殖施設として改修が完了している。

２．方法

水産海洋研究センター石垣支所、水産海洋研究センター、石垣市水産課、八重山漁協、八重山漁協魚類養殖生産部会と連携して種苗配布、魚病検査及び対策、各種試験等の調整を行った。

３．結果及び考察

本庁での魚類種苗配布検討会の結果を受けて、八重山地区におけるヤイトハタ種苗配布の調整を行った。種苗配布は７月１日から３日にかけて１１名に計５７０００尾を配布した。今期配布した種苗はＶＮＮキャリアーであったことから配布後斃死が相次いだため、８月２３日に特に斃死の多かった５名に計９９００尾を再配布した。

また、配布した種苗において台風通過後のスレにより滑走細菌症が疑われる４名についてＯＴＣを投薬（７月）。ハダムシ・エラムシの大量付着がみられた２名についてハダクリーンを投薬した（８月）。投薬については、いずれも水研センター石垣支所からの投薬指導を受けて行った。

水産海洋研究センターより、チャイロマルハタでもイリドウイルスワクチン試験を行いたいとのことで協力依頼があり、８月７日に水産海洋研究センター石垣支所でチャイロマルハタ900尾にワクチン接種を行い、８月１９日に八島養殖場に収容した。その後、ワクチン接種区900尾、対照区900尾に対して３ヶ月間飼育試験を行ったが、両区ともに特に目立った斃死は見られなかった。

１０月から八重山漁協と商談のまとまった業者に対して、４トン規模の大量出荷を行っているが、餌止め等が適切に行われていない事から、漁協とその連絡体制について協議した。漁協で1.5kg以上のヤイトハタをkg千円で買い上げ、鍋食材用に加工（真空パックして急速冷凍）後出荷している。

４．今後の課題

養殖漁業者によって技術にバラつきがある。今期配布した種苗で斃死が多かった原因として二重網での養殖があった。稚魚の逃亡防止とのことであったが、結果的に海水の交換を悪くし、ＶＮＮの発症につながったのではと考えられる。今後、魚病や基本的な養殖手法について勉強会を開催する必要がある。

今期から行っている大量出荷について、出荷する魚は、配合餌料給餌の場合は１週間の餌止め、生餌給餌の場合は１ヶ月前から配合餌料へ転換してから１週間前の餌止めを漁協から指導していたが、必ずしも守られていない。加工担当者によると餌止めをしないと魚体に臭いが残るらしい。今年の種苗配布時に親魚の出荷がなく生け簀が空かないことから

種苗導入をあきらめた漁業者もおり、このような大口の注文を継続して受けていく必要がある。しかし、上記のことからクレームが来て取引がなくなることがないよう指導を徹底する必要がある。

①八島の魚類養殖施設の様子

②８月７日に実施したチャイロマルハタのイリドウイルスワクチン接種試験の様子

③イリドウイルス不活化ワクチン「ビケン」

④チャイロマルハタ淡水浴の様子

⑤ヤイトハタ大量出荷の様子。取り上げは漁協職員が行う。

⑥出荷前のヤイトハタ即殺の様子。この後トールを挿入して脊髄を破壊する。